

通貨が生まれ変わるとき

泉 留維

アルゼンチンの国民通貨と聞かれれば、今は一体なんと答えればいいのか。日本では「円」、アメリカでは「ドル」、そして来年から EU は「ユーロ」、それぞれ自らのアイデンティティかのように独自に排他的な通貨をもっている。アルゼンチンは、91 年の「兌換法」によって、実質的には自らの独自通貨アルゼンチン・ペソを捨ててしまったが、国内では「ペソ」という単位で現金が流れていた。ただ今年に入り、IMF による緊縮財政政策の強要され経済的には瀕死の状態になり、そしてこの 12 月に入り銀行口座の引き出し制限をおこなったりして暴動が起き、バンクホリデーが実行されるまでに至っている。デラリア大統領の政権は 20 日に崩壊し、現在は野党であった正義党が握っている。

23 日に正義党のロドリゲス暫定政権は、100 万人の新規雇用を生み出すための政経済回復プログラム（年金の 13%カットなども含む）の中で、来年 1 月下旬からペソとは全く違い外貨準備高とはまったく関係性なく発行される「アルヘンティーノ（Argentino）」（スペイン語でアルゼンチンの意味）という流通する債券について盛り込んだ。アルヘンティーノとは、1881 年に発行されたアルゼンチン史上最も強かった通貨の名前であり、今は面影を伺えないが当時アルゼンチンは世界十氏の指に入る経済大国であった。暫定政権は、現在のカレンシーボード制は維持すると宣言しているが、その裏でアルヘンティーノの発行によってペッグ制のしがらみから脱却し独自の通貨金融政策を行える体制への移行と言えよう。ただ、まだオフィシャルな発表が行われていないので、IMF 等との債務削減交渉を有利に導くための方便の可能性も多少は残っている。

1 アルヘンティーノ = 1 アルゼンチン・ペソ = 1 米ドル、という仕組みで来年 1 月下旬から開始するが、フリヘリ財務担当国務相は 26 日付の地元紙クラリンとのインタビューで、ロドリゲス暫定政権が導入を予定する新通貨「アルヘンティーノ」について、流通開始時点では米ドルや既存のペソと等価とするが、将来は切り下げる可能性もあると述べた。すなわち、ハイパーインフレーションを断ち切ることに成功したカレンシーボード制のような固定相場は取らず、ドルと等価の交換を保証しないようである。まずこの新「通貨」は、パタコンの時と同じように、連邦政府の財政が危機的状況にあるため、公務員給与や年金給付金として発行されるようであり、またワシントンポストによれば、アルヘンティーノの発行額は当面 30 億ドル規模になる見通しと書かれている。

アルゼンチンの通貨の状況をまとめると下記のようなになるであろう。

中央銀行が発行する通貨：アルゼンチン・ペソ

実質的な通貨：米ドル（外貨準備高にペソの発行が制限され、1 ペソ = 1 ドル。）

州政府が発行する債券：ブエノスアイレス州が発行する「パタコン」がその代表（1 ペ

ソ = 1 パタコン)。仕組みは多少違うようであるがほぼ全州で発行されている (lecors、cecacors、bonfles などという名で発行されている)。また、その下の行政区域でも独自に発行していて、例えば北サンタフェ州の 1 万 3000 人の「Calchaqui」という町で発行されている。＜パタコンに関しては『人間の経済』11 号参照＞

連邦（中央政府）が発行する債券：レコプという名で、各州が発行している流通する債券を吸収するために 13 億ペソ相当を印刷、現在のところ 7 億ペソ分を発行。

新しく流通する債券：アルヘンティーノ。変動相場制。

市民が発行する通貨：RGT。

上記を見てのとおり、外部の人間にとっては非常に複雑怪奇な状態ではあるが、今のところそれぞれ自らの「市場」において流通しているようであり、少額の額面がないことでの問題以外は、大きな問題が起きていないように思われる。「アルヘンティーノ」に関しては、現状ではあまりにも情報が少ないので何とも言えないが、一国一通貨の幻想を破壊させしめ、より生活に密着した新しい「通貨」が生まれるという期待を持ちたくなる。今後とも、アルゼンチンの状況は追っていきたい。

2001 年 12 月 27 日